

延岡市こども計画（案）のパブリックコメント結果及び回答

- 募集期間 令和7年1月17日（金）～令和7年2月6日（木）
- 意見提出（提出者7名 意見数19件 内訳 関連事業13件 計画全般6件）

項目			市民の意見	本市の考え方
1		少子化	私も30数年前に川崎市から仕事で延岡市に移住したのですが、その時は人口は、14万人以上いたと思います。現在の人口11万人で3万人減少しています。30数年前と現在もほとんど町は変わらない、何もない町と思います。また若者は、給与が安い為、長く定着しなく給料の高い都市部へ移住、また事業継承者の問題、事業所の閉鎖、工場の閉鎖などで人口減少になっていると思います。	若者の地方からの流出については、我が国の地方全体の課題となっており、「若年層の東京圏、地方圏への移動に関する意識調査」の報告書によると、地方圏から東京圏へ転居したきっかけについては、15歳～19歳では「進学」、20歳～24歳では「就職」、25歳～29歳では「転勤、職場が再編」が最も多くなっています。 このような傾向は、全国の地方都市に見られ本市も同じ状況にあります。これまで続けてきた人口減少や東京圏への一極集中の流れを地方自治体の努力だけで変えることは不可能であり、若者の流出を含む人口減少対策は政府として取り組む必要があると考えています。 そのような中、本市では、若い世代の人口流出を防ぐためには、雇用の確保が重要であると捉え、人口減少対策として、若い世代の雇用を確保するため、IT企業を中心とした情報関連企業をはじめ、企業誘致に積極的に取り組んでおり、令和3年に政府からスマートシティに選ばれ、その後首都圏等から次々にIT企業が進出してきており、本年2月18日に企業立地協定を締結した「VALT JAPAN DIC株式会社」を含めた15の新たな事業所が市内に開設されております。 また、製造業の誘致につきましても、円安や製造業の国内回帰などの動きの中、世界最大の半導体受託製造企業・TSMCの熊本進出などに伴い、本市においても企業立地等の問い合わせが寄せられていることから、産業用地を確保するため、天下町の新たな産業団地や北方インター公園など産業用地の整備を促進してまいります。 一方、特に人手不足が叫ばれている保育・介護・障がい福祉・看護・交通の各分野の人材確保のための本市独自の補助制度の創設をはじめ、地元企業の人材確保や若者のUIJターン促進などに全力で取り組んでいます。
2	関連事業等	少子化	まず初めに思った事は、次世代の社会を担う子供を支援する仕組みは大変良いことだと思います。しかし、本質は少子化だと思います。 私は18歳の時、神奈川県厚木市に就職しました。その時の厚木市と延岡市の人口は共に13万人台でした。北には丹沢山系があり、東は相模川が流れていて、良い街だと思いました。数年前、その厚木市が住みたい街ランキング1位に選ばれたと知り、調べてみたところ人口は22万人台になっていました。グーグルマップで見てみると大手企業の研究機関や大学関係機関が多数建てられていて、住宅も明らかに多くなっています。首都圏に近く、交通の便が良く、大手企業での働く場所も有れば当然、人も増えるでしょう。 さて、延岡はどうでしょうか。旭化成とその下請け企業ばかりで賃金水準は非常に低いです。若者は進学や就職を期に県外へ出ていき、そのまま定住する人も少なくありません。 2000年に人口が都城に逆転された時は大変ショックを受けましたが、なぜ逆転されたのか、その要因は高規格道路や企業を誘致できる広い土地、また、宮崎や鹿児島にもアクセスしやすいさがあると思います。延岡は自動車道があるものの熊本までは未完成、東九州自動車道は片側一車線の区間がほとんどで、快適とまでは言い難いですね。まず、企業を誘致して若い人の働ける場所を作る。そして、延岡で生活できる環境を整えるのが先だと思います。 とは言え、全国的に少子化は進んでいます。昨今の物価高も人口の減少に拍車がかかるかもしれません。	さらに、移住定住促進のためにも様々な事業を行っており、例えば、「移住支援金」につきましては、国や県が対象としていない移住者に対しまして、広く市が独自に支援し、移住者数・移住相談件数ともに高い水準を維持しながら推移しています。 また、「奨学金返還支援」にも積極的に取り組んでおり、県の支援決定者への上乗せ補助や市独自の返還補助制度の運用により、若者の奨学金返還への負担軽減を図ることで、市内企業等への就業に繋げる取組も進めています。 事業承継の推進につきましては、事業を譲る側・譲り受ける側双方への補助制度を運用しているほか、関係する支援機関とも連携したセミナーの開催など、事業承継に関する意識の醸成・啓発に取り組んでいます。 高速道路の整備については、企業誘致等雇用創出のためにも必要ではある一方、昨年8月8日には日向灘を震源地とするマグニチュード7.1の地震が発生し、「南海トラフ地震臨時情報」が発表されるなど、南海トラフ地震の発生が懸念される今、災害時の「命の道」として、早期完成は喫緊の課題であると考えております。 建設促進大会への首長参加はもとより、九州中央自動車道の早期開通や東九州自動車道の4車線化などを関係方面に強く働きかけており、今年度は、昨年7月、10月、今月（2月）と、行政、議会、民間の団体合同で、国や道路を管理するネクソコ西日本、さらに道路整備の中心的役割を果たしている国会議員の方々等に対する提言活動を行っているところです。

項目			市民の意見	本市の考え方
3	関連事業等	少子化	こども計画(案)は、多岐にわたり施策がとられており、すばらしい内容です。ただし、子供に関する種々の課題において、一番重要なことは少子化対策にあると思います。 ワークライフバランスなど時代の変化に伴う晩婚化などの問題がありますが、私は結婚して子供を持つことができる人達に対して、3人、4人と多子の家庭への施策をもっと充実させるべきと思います。多子の家庭で一番問題なのは経済的負担です。その中でも教育にかかわる負担が大きいです。3人目以降の子供に対しては、高校、大学と教育費無償化等の経済的支援があれば、子供を持つことができる人達に多子の家庭を築く手助けとなります。	少子化対策については、2014年に政府が「地方創生」の取組みを始めてから今年で10年を迎えますが、地方創生の推進に当たっては、それぞれの自治体が主体的に行う創意工夫の取組を国が後押しすることを基本とし、地方創生の4つの柱、すなわち、地方に仕事をつくる、人の流れをつくる、結婚・出産・子育ての希望をかなえる、魅力的な地域をつくる、に沿った施策を、デジタルも活用しながら展開してきたところであり、本市はもとより、多くの自治体において、デジタル田園都市国家構想交付金等を活用した主体的な取組が進められ、一定の成果はあったと考えてます。 しかしながら、これまで続けてきた人口減少や東京圏への一極集中の流れを変えるには至っておらず、人口減少にも歯止めがかかっていないことから、本市としましては、今後さらに取組を進める必要があると考えております。 また、高校、大学と教育費無償化等の経済的支援については、大学や大学院、短期大学、高等学校、高等専門学校、専修学校などに在学し、優秀かつ経済的理由により修学が困難で、延岡市に2年以上住んでいる保護者を持つ学生・生徒に対し、奨学金を貸与する「延岡市育英会奨学金」や市民の皆様の子弟が高等学校や大学等の教育を受ける機会を拡大し、市民の生活の安定と福祉の増進に寄与することを目的に、市内の2つの金融機関と提携して教育に必要な資金を低利子で融資を受けることができるよう「教育資金融資事業」を実施しています。 これからも事業を継続し、教育を受ける機会の拡大に努めてまいります。
4		こどもの見守り	これからの社会を作る子供や若者に対して皆様が一生懸命熟慮され、子供達からのアンケートも実施され、また、それを素にさまざまな案を作成されている事に頭が下がります。制度も充実してきましたが、まだまだ子供や近い方々の事件等も多々あり、これからの日本、また、宮崎県も心配な事だと思われま す。 計画案の中にある「こどもまんなか地域づくり」から始めて頂ければと思います。地域には年長者ばかりの地区もあり、子供達を受け入れる気持ちがあっても何からして良いものか分かりません。経験豊富な方たちの力を借り、地域で子供を育てる事も一理あると思いますが、私も一人親として子育てをしました。回りの方々の力をいっぱい借り、何も心配する事なくです。昭和100年、住み良い延岡をお願いします。	こどもの見守りについては、さんさんクラブ(高齢者クラブ)や各地域の民生委員・児童委員の方々をはじめ、各地区のボランティア団体や青色パトロール隊を中心に、学校側と連携して、登下校時の見回りや不審者情報の共有等を行っております。 本市としても、延岡地区防犯協会を通じた各種ボランティア活動への支援や、防犯イベントの開催・啓発等により、こども見守りを含めた防犯活動を継続して推進し、安心で安全なまちづくりを目指していきたいと思っています。
5		相談体制	こどもの支援、教育、行政サービス、ライフ、その他の業務確認、依頼等で窓口(課)が多過ぎ、どの窓口を訪ねてよいかわからないと思います。窓口を一つにしたらどうですか。(こども課の創設)(各課から人を集めてこども課を創設する。)	本市では、「医療・介護・福祉」と「子育て・教育」の二つの分野を中心とした総合相談窓口として「なんでも総合相談センター」を開設しており、休日も含む365日、市民の皆様からの様々なご相談に対応しているところであります。
6		相談体制	こどものなんでも相談室を地区のコミュニティセンター活用したらどうですか。	また、子どもの貧困や虐待、ヤングケアラーといった、こどもに特化した課題等については、「こども家庭サポートセンター」が中心となってアウトリーチなどの対応も含め支援を行っているところであり、なんでも総合相談センターにおけるご相談も必要がある場合は、こども家庭サポートセンターなどの庁内課室や関係機関・団体へとつなぎ、連携や情報共有を行っているところです。 これらの相談窓口に関しては、引き続き、市民の皆様への周知等を図って参りますので、今後とも広くご活用いただきたいと考えております。

項目			市民の意見	本市の考え方
7	関連事業等	相談体制	今回の件で、正直、子育て支援は具体的に何をしているか？情報の提供や支援の紹介など行っている様ですが、実際に相談に行けているか？それを知っているか？知らずに悩んでる方は居ると思いました。学校、産婦人科など、子育てに関する制度、相談窓口のお知らせを配布できると良い。自分で求めるのは厳しい方もいるので…	本市では、妊娠期から出産後の子育て期までの全ての妊婦・及び子育て世帯を対象とした伴走型相談支援を行っています。 妊娠届出時には、出産・育児等の見通しを立てるための面談を行っており、その後も継続的に情報を発信しています。 また、市が運営しているアプリ「すくすくワクチン」では、さまざまな情報を発信していますし、出産後も全ての子育て世帯と面談を行い、身近で相談に応じるとともに、産婦人科とも連携して必要な支援につないでいます。その際にも相談窓口や利用できる子育て支援の紹介を行い、子育て世帯が安心して育児が行えるよう支援を行っています。
8		相談体制	子供の障がい、見た目では解りにくいので少し言動がおかしいと奇異な目で見える。見られる親もどうしていいか？そういうのに専門の方が対応、気軽に相談できる場があると良い。	こどもの発達等、さまざまな障がいに関する困りごとや悩みごとなどを支援する相談窓口として基幹相談支援センター（北部・西部・南部）を市内に3か所設置しています。 また、「気になる段階」からの支援を行う巡回指導専門員による対応も行っています。 関係機関と連携しながら、お子様の障がいについて一緒に考えてまいりますのでお気軽にご相談ください。
9		相談体制	親が子供を私物化しているのをよく見かける。まだ子供なのに自分の価値観を植えつける。学校に子供が親には内緒で（知られると体罰または食事が与えられない）第三者の方で対応できる環境づくりもお願いしたい。	こどもたちが直接相談できる窓口として、宮崎県教育委員会や宮崎地方法務局、延岡警察署などが設置する相談窓口があり、こどもが電話やチャットで相談することができます。これらの窓口は、学校を通して子どもたちに周知しています。 また、延岡市のおよこ保健福祉課や青少年育成センターでも相談を受け付けています。 さらに、延岡市では、他市にない教育の社団法人「延岡こども未来創造機構」があり、さまざまなプログラムを実施していますので、その中でも相談などができる環境も作っています。
10		学業奨学金	事業内容で奨学金の貸与で優秀かつ経済的理由により修学が困難で、あるが目的は同じで普通人は、経済的困難な場合、学業奨学金の借与出来ない様にとらえるので差別にしたいと思います。	延岡市育英会は、先人たちの寄付を元に設立された公益財団法人であり、税金等を財源とする市の事業とは別の財源で運営されており、その設立根拠である「定款」では、「優秀な学生生徒で経済的理由により、修学困難な者に対し奨学援助を行い有用な人材を育成することを目的とする。」と定めています。 選考については、経済的理由だけでなく、中高時代の成績（大学の奨学金であれば高校時代、高校の奨学金であれば中学時代）も基準の一つとなっております。 また、県内他自治体の奨学金制度の基準を見てみますと、 ・「学業、人物ともに優秀かつ健康であって」都城市都城三股みらい応援奨学金 ・「学業成績及び素行が優良であること」西都市奨学資金貸付 ・「学業成績、人物ともに優秀で健康であること」日南市育英奨学金 であり、本市育英会だけが「優秀」を選考基準の一つとしているわけではありません。以上のことからご理解をいただきたいと思います。
11		親育て	53年前くらい、役所内の保健婦さん室に乳児だった子供の相談に行った記憶があるのみで、今はいいなと思う。今回の案、立派なことと思いつつ、恵まれてるな～、これで両親は強くなれるかな～と不安を感じる。	本市では、妊産婦およびすべてのこどもとその家庭を対象に、様々な相談に対応し、関係機関と連携を取りながら、実情に応じた適切な支援につなげています。 こどもが成長する過程が、親も一緒に成長できる機会となる中で、不安を感じている親に寄り添い、必要な助言や子育て支援等につなぎながら、一緒に考えていく伴走型相談支援を行っています。
12		ワーク・ライフ・バランス	仕事では、妊活できる環境も仕事を取るか？子供をとるか？ではなく、両方活かされる方向性に各企業の方々をお願いしたいと思いました。	本市では、仕事と家庭、地域活動等をバランスよく充実させるため、ワークライフバランスについての講演会を開催しており、宮崎県工業会や延岡商工会議所などを通して、市内企業等にも案内を出すなど周知、啓発に努めています。また、男女共同参画社会づくりの実現に向けた啓発として、毎年情報誌「響」を作成して情報発信を行っています。 また、妊娠届出時には、育児制度のパンフレットを配付するとともに、家庭状況に応じた育児の取得を勧めています。

項目			市民の意見	本市の考え方
13	関連事業等	市政全般	宮崎は天孫降臨と日向三代ゆかりの地で、高千穂など多くの観光資源に恵まれています。今から13年前は古事記編纂1300年の年でした。しかし、そのことを知っている人は少なく、もっと、その話題を広めて欲しかったです。そのためにも道路が重要でしょう。	国スポ障スポが令和9年に本県にて開催されることが正式に決定し、様々な競技が開催されることに伴い、競技参加者はもとよりその関係者など多くの大会関係者が本市に訪れることが見込まれています。また、令和9年は、「西南の役150年」及び「ユネスコエコパーク登録10周年」の節目の年に当たり、本市における西南の役戦跡及び西郷隆盛所縁の地、大崩山などの豊かな自然や生態系にも大きな注目が集まることが予想されることから、本市への多くの方々への来訪が期待されています。 このため、令和9年を契機として、本市の魅力ある観光資源について広くPRを行うとともに、史跡や散策ルートなどの設定、案内看板や誘客看板、パンフレット制作等の整備について、令和6年度より「未来への投資～1200日プロジェクト」として、取り組んでおります。 高速道路の整備については、九州中央自動車道の早期開通や東九州自動車道の4車線化などを関係方面に強く働きかけており、今年度は、昨年7月、10月、今月(2月)と、行政、議会、民間の団体合同で、国や道路を管理するネクスコ西日本、さらに道路整備の中心的役割を果たしている国会議員の方々等に対する提言活動を行っているところです。
14		周知について	特に妊娠・出産に関して、具体的で手厚い計画だと感じました。ライフステージのどこかの段階で、どんな困りごとが発生しても「市役所に連絡すれば大丈夫」と思える多岐にわたる頼もしい計画なので、どれだけ周知させられるか、必要としている人にちゃんと届くかが鍵かと考えます。	本計画の周知については、市HPでの掲載をはじめ、概要版を作成するなど様々な機会を捉えて市民の皆様への周知を図りますとともに、具体的な施策については、事業実施にあわせ個別に周知していきます。 今回、特に、本計画が「こどもまんなか」の社会の実現であることから、こどもへの周知を強化するため、本計画の表紙は、こども・若者に「延岡の未来図」を募集し掲載することで興味・関心の醸成にも取り組んでいます。
15	計画全般	掲載方法	これまでの市政にあったもの、過去利用させていただき、大変助けられた事業も多く記載されていたので、今回の計画で新設された、新しく導入されたものはどれなのかがわかれば検討しやすかったと思われます。有益な「意見」を寄せられず申し訳ありません。尽力されている職員の方々の健康をお祈りいたします。いつもありがとうございます。	令和7年度から5年間を計画期間とする本計画は、これまでの「子ども子育て支援事業計画」をはじめ、少子化や貧困対策、こども・若者計画などの一体的な計画として、今回、新たに策定するもので、具体的な施策には、こども・若者に関する様々な分野の継続事業や新規事業を体系的に掲載しております。
16			計画策定の数が多すぎると思います。実現できるの策定から実施した方が良いと思います。例として図る、検討、推進、取り組みは、削除しても良いと思います。	今後、掲載した事業を一体的に推進することで「こどもまんなか社会」実現をめざしており、具体的には、P121,122で代表的な成果指標として、基本目標ごとに目標値を示したところであり、中間年度となる令和9年度には、具体的な施策や目標値の見直しを行いながら、実現性を高めていきます。 なお、市だけが実施する事業ばかりではなく、市や住民の方々など一緒に取り組むものも多いので、「図る」などの用語は、どうしても用いる必要がありますことをご理解いただければと思います。
17		意見聴取方法	子育てから40年以上経つ私たちに、このようなアンケートは、少し疑問には思いました。	本計画は、地域が一体となって、未来を担うこどもたちが希望をもち、元気に活躍し、誰もが「子育てするなら延岡で」を実感できる笑顔あふれるまちづくりをめざして、「みんなで描く、こども・若者の未来づくり』『こどもまんなか・延岡プラン」を基本理念としています。
18			意見にはならないが…また、この高齢者に意見を求めるのが、どうだったのかと思う。昔のことばかり掘り起こすばかりで、是非そうするべきだと心から賛成もできず…時代の違いもあろうが…余生のない者には良い意見ができません、悪しからず。市長さん、がんばり、ありがとうございます。	これは、「こどもまんなか」の社会の実現には、家庭、学校、地域が一体となり、ライフステージに応じ切れ目なく支援するための子育て・教育環境が必要であり、行政だけでなく、また高齢者の皆様も含め、「みんな」で役割を担い、協力して、こども・若者が年齢や家庭環境、障がいの有無などに関らず、安心して暮らし、夢や鬼謀をもって成長し、その可能性を最大限に発揮する未来を描くためにも、様々な年齢層からの貴重な意見を踏まえながら事業展開に努めてまいります。
19			また、その内容の充実さゆえに、担当される職員の方々の仕事が増え、過労や休職につながらないか懸念します。職員の健康を損ない、人手不足から質の低下、事業不成立となっては本末転倒。	また、市職員へのご配慮ありがとうございます。今後とも、事業実施にあたっては、職員の働き方改革等も念頭に、年齢等に関らず多くの市民の方々に様々な機会を通じてご理解、ご協力をいただけるよう努めてまいります。